

2024年 事後活動ニュース



内閣府

内閣府青年国際交流事業はあなたの飛躍を応援します！



CONTENTS

1 内閣府青年国際交流事業 事後活動について

【グローバルな活動】

- 3 SSEAYP国際ショナル第33回総会 (SIGA2024) タイ
- 5 第15回 SWYAA世界大会 (GA) スウェーデン
- 7 SSEAYP国際ショナル (SI) 各国の活動
- 8 SWYAA各国の活動

【ローカルな活動】

- 9 令和5年度「世界青年の船」事業 (地域実践活動) の受入れ
- 11 国際社会青年育成事業 (地方プログラム) の受入れ
- 12 日本・韓国青年親善交流事業 (地方プログラム) の受入れ
- 13 日本・中国青年親善交流事業 (地方プログラム) の受入れ
- 14 第48回「東南アジア青年の船」事業 (地方プログラム) の受入れ
- 15 青少年国際交流事業事後活動推進大会
- 16 ブロックイベント開催報告
- 17 北海道IYEOの活動／長崎県IYEOの活動
- 18 宮崎県IYEOの活動／IYEOオンボーディング

【IYEO会員の活動】

- 19 三浦宗一郎さん

内閣府青年国際交流事業 事後活動について

1. 事後活動とは

内閣府青年国際交流事業に参加した青年（既参加青年）には、事業に参加して得た経験をその場限りのものとせず、事業参加後の活動に結びつけ、広げていくことが期待されています。実際に、多くの既参加青年たちが、事業参加後もその属する地域や職域など社会の各分野において、事業参加によって得た知識や経験、人脈をいかして、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。内閣府では、事業で得た学びを広く地域社会や国際社会に還元することを目的とした社会貢献活動を「事後活動」と呼び、既参加青年の活動を支援しています。

2. 事後活動を支える日本青年国際交流機構（IYEO）と世界的な人的ネットワーク

日本青年国際交流機構（IYEO：International Youth Exchange Organization of Japan）は、この「事後活動」に取り組む既参加青年の全国的組織として、1985年に設立されました。2024年度も「共生社会の実現に向けて、生きる力を発揮しよう」をその活動方針とし、47都道府県に支部を置きながら地域に根差した国際交流活動や青少年育成活動、パラスポーツ振興支援など、その豊富な人材とネットワークを駆使して、内閣府と連携しながら様々な活動に継続的に取り組んでいます。

また、海外においても、40を超える国々で外国参加青年の事後活動組織が設立され、各国独自の社会貢献活動が行われています。こうした事後活動を支えるネットワークの下、既参加青年は、同じ関心を持った青年と世代、地域、国を超えてつながることができるほか、IYEO自主活動サポート助成金制度（チャレンジファンド）等を活用するなどし、熱意やアイディア次第で取り組みたい活動をすることができます。

なお、これら事後活動組織による活動はもちろんのこと、既参加青年一人一人が自身の社会活動などにおいて、事業参加によって得たものをそれぞれのやり方で社会に還元することもまた「事後活動」です。





3. 内閣府青年国際交流事業 2024年 事後活動ニュース

本事後活動ニュースは、2024年に既参加青年が各々の住む地域や職域等で取り組んだ事後活動の一部を主に紹介するものです。

(1) グローバルな活動

事業の長い歴史の中で培われた世界的な人的ネットワークの活動として、「東南アジア青年の船」事業の事後活動組織であるSI (SSEAYP International)、「世界青年の船」事業の事後活動組織であるSWYAA (Ship for World Youth Alumni Association)の事後活動組織の活動をそれぞれ報告します。

「東南アジア青年の船」事業の事後活動組織については、タイで開催されたSSEAYP インターナショナル第33回総会 (SIGA2024) について、大会に参加した既参加青年からの報告を掲載しています。また、SI各国からの活動も紹介します。

「世界青年の船」事業事後活動組織については、スウェーデンで開催された第15回SWYAA Global Assembly in Swedenについて、大会に参加した既参加青年からの声を紹介します。また、SWYAA各国のうち、エクアドルと南アフリカ共和国で行われた社会貢献活動についても報告します。

(2) ローカルな活動

都道府県IYEOでは、各地域で次世代の人材育成、地域の国際交流及び国際親善の促進のための様々な活動を行っています。今年度の活動の中から、内閣府青年国際交流事業における地方プログラムの受入れと山梨県で開催された青少年国際交流事後活動推進大会及びブロックイベント（青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考える集い）の取組を紹介します。

さらに、IYEO会員は個人のレベルでも、各地域、職域、学校、青少年団体等で様々な活動を行っています。IYEO会員が自主的にチームを結成して各地で活動をしている事例や、事後活動への参加や活動そのものの活性化を目指すオンボーディングの事例について紹介します。

(3) IYEO会員の活動

本事業の参加によって得られた経験や学びを自身のキャリア形成にいかし、現在、ビジネスの第一線で活躍している既参加青年を紹介します。



SSEAYPインターナショナル 第33回総会 (SIGA2024) タイ

「東南アジア青年の船」事業 (SSEAYP) に参加した参加青年は、IYEOと同様に東南アジア各国及び日本において事後活動組織を作り、各国において各種の国際交流活動及び青少年健全育成活動等の社会貢献活動に寄与しています。各国の事後活動組織の国際ネットワークとして、SSEAYPインターナショナル (SI) が1987年に設立され、毎年1回、各国の持ち回りでSI総会 (SIGA) を開催しています。

対面のSIGAとしては5年ぶりの開催となった第33回総会は、由布和嘉子内閣府青年国際交流担当室長、藤森俊輔内閣府青年国際交流担当参事官、武田由香子事務官の出席のもと、令和6年(2024年)5月1日から4日にタイ・チョンブリー県パッタヤーにて行われ、日本及びASEAN10か国(合計11か国)から197名が参加しました。

以下に、IYEOを代表して派遣された新井美貴子さん(第44回「東南アジア青年の船」事業既参加青年、長野県IYEO会長)からの報告を一部抜粋して掲載します。



新井美貴子さん

第44回「東南アジア青年の船」事業
既参加青年
長野県IYEO会長

初めてのSIGA

今回、初めてSIGAに参加しました。総会では、タワチャイ・スリトーン チョンブリー県知事からのご挨拶があり、由布和嘉子内閣府青年国際交流担当室長が記念品交換を行いました。また、各国事後活動組織からの報告もありました。課題別社会貢献活動では、3つのグループに分かれて活動を行いました。「ジェンダー平等と女性活躍の推進」のグループでは、チョンブリー県にある女性の能力開発支援センターを訪問し、困難を抱える女性に対する就労訓練の取組を学びました。その他、レセプションへの参加やビーチ清掃活動などの活動を既参加青年とともに行い、SSEAYPにもう一度参加したかのような時間を過ごしました。その中で、特に印象的だったことを2点報告します。

自分自身が成長できる事後活動

1点目は事後活動発表です。今回、長野県IYEOの活動紹介の機会をいただき、SSEAYP地方プログラムの受入れ活動や、90回以上実施している自主事業「English café」の取組を発表しました。これらの活動以外に、私には共有したいことがありました。それは「事後活動によって成長できる」ということです。



実行委員会メンバーとの記念撮影



チョクチャイ・ウィチアンチャイヤー
タイ社会開発・人間安全保障省副
報道官(中央)との記念品交換



SSEAYPへの貢献により外国人叙勲を受章された方々との懇談



パッターヤ・ビーチ清掃活動に取り組む参加者



次回第34回SIGA2025の主催国であるカンボジアによるプレゼンテーション

平成29年(2017年)にSSEAYP参加中、私は語学力を含め全てにおいて自信がなく、ステージに立つことに極めて消極的でした。さらに、係活動などにおいてもリーダーや副リーダーの役割を担うことができませんでした。しかし、今は長野県IYEOの会長になり、自らの意思でステージ発表の機会をいただきました。事後活動は社会貢献になるだけでなく、自分自身の成長につながる。それをどうしても伝えたくて、「事後活動は地域への貢献にとどまらず、楽しみながら自分自身の成長にも役立てられるものです。私は事業参加時は人前で話すことが苦手でしたが、事後活動を通してこうして今ステージに立っています」と最後に述べたところ、会場から大きな拍手が起こりました。

SSEAYPに参加できたこと、参加後7年間、長野県IYEOの素晴らしい先輩とともに楽しく事後活動を続けられたこと、そして今般のSIGAにおいて活動を認めてくれる既参加青年との出会い。たくさんの幸運に感謝の思いでいっぱいになり、また今後の活動の励みにもなりました。

友情をさらに深め、互いに高め合える関係性を構築できる機会

2点目は既参加青年との交流です。今回、SSEAYP同期(2017年)の既参加青年が各国事後活動組織の代表として多数参加しており、最大勢力という様子でした。SIGAの実行委員として朝から深夜まで汗を流すタイの青年、事後活動に熱心に取り組むインドネシアとブルネイの青年、私のEnglish caféの活動に「自分の国でもやってみたい。90回以上も持続的に活動をしているのがすごいね」と嬉しいコメントをくれたシンガポール青年。SIGAで一緒に過ごすことで友情をさらに深めることができ、お互いの事後活動に関する情報交換を通じて刺激をもらいました。

また、1980年代、90年代にSSEAYPに参加した大先輩が今でも交流を楽しんでいる姿を見て、自分も将来こうありたいという目標となりました。SSEAYPは約1か月で終了しますが、事後活動は生涯にわたって続く。お互いの活動を認め合い、高め合える関係性を既参加青年との間で構築できる。そんなSSEAYPの魅力を改めて実感しました。

日程	プログラム
5月1日(水)	参加者到着 SSEAYPインターナショナル各国事後活動組織 代表者会議 歓迎夕食会
5月2日(木)	総会 ノンヌット・ショー及びビーチ清掃活動
5月3日(金)	テーマ別社会貢献活動 (1) 健康とウェルビーイング (2) ジェンダー平等と女性活躍の推進 (3) 経済成長と住み続けられるまちづくり 歓送夕食会
5月4日(土)	参加者解散

グローバルな活動 第15回SWYAA世界大会 (GA) スウェーデン

令和6年(2024年)8月3日から7日に、「世界青年の船」(SWY)事業の既参加青年ネットワークである「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)の第15回SWYAA世界大会が、スウェーデンのストックホルムで開催され、20か国より111名が参加しました。内閣府からは、伊藤慶矢参事官補佐、長谷川穂事務官が出席しました。

以下に、IYEOを代表して派遣された栗原エミルさん(令和元(2019)年度「世界青年の船」事業既参加青年、秋田県青友会会長)からの報告を一部抜粋して掲載します。



栗原エミルさん

令和元(2019)年度「世界青年の船」事業
秋田県青友会会長

国と年代を超えて参加者が一気に近しくなった初日

最初に、SWYAA スウェーデンによるアイスブレイキングセッションが行われました。各自の誕生日や着ている服の色毎にグループに分かれることで参加者同士が知り合う機会となりました。それぞれのグループでチーム名を決めて、用意されていた五つのゲームに参加しました。中には伝統的なスウェーデンのゲームもありました。ゲームは全てチーム戦で、グループのメンバーと協力しなければならないものだったので、終わる頃にはチームの仲が格段に深まりました。

船上で執り行われた開会式

開会式は、「世界青年の船」事業(SWY)の精神に従い、チャーター船であるM/S Blue Charm号の上で執り行われました。SWYAA スウェーデンのマルティア・フレイホルツ会長、内閣府伊藤慶矢参事官補佐それぞれから挨拶があり、夕食会のほかチャーター船によるストックホルム群島のツアーが行われました。



内閣府伊藤参事官補佐によるスピーチ

街歩きをしながら清掃活動

いくつかのグループに分かれて、ストックホルムにある施設または一部地区を清掃し、地域社会をより持続可能でクリーンな環境にすることを目的として行われました。私たちが訪れたアルスタは、水辺にある地区で、自然保護区を有する場所です。ゴミは多くなかったものの、タバコの吸い殻は多く見つかりました。参加者は達成感とともに活動を終わりました。



日本の記念品を受け取るマルティア・フレイホルツSWYAAスウェーデン会長

社会団体を視察し、スウェーデンの課題と取組を学ぶ

参加者の事前の希望に合わせて、施設5か所のうち1つを見学しました。私は若者向けに演技、ダンス、詩、ファインアート、クリエイティブライティングなどを教えるKulturhuset Vällingby(KV)という若者文化センターを訪問しました。夏休み中だったので閑散としていましたが、担当の方が丁寧に施設を案内してくださいました。収容人数約50名のミニホールやダンスの練習に使える鏡張りの部屋など、多様な用途を想定して作られた施設でした。

フェアウェルパーティーにおける集合写真





若者文化センター(KV)にて説明を聞く参加者



若者文化センター(KV)の
50名収容可能なミニホール



若者文化センター(KV)を視察した参加者全員で

また、移民女性の定住支援に取り組む企業(Yalla Rinkeby(YR))を訪問したグループもありました。スウェーデンでは難民・移民へのサービスは、通常は地方自治体が行っていますが、Yalla Rinkebyはビジネスとして対象者への研修を受託しています。就職支援がすべてオンラインであるため、PCスキル、デジタルスキルがないと申請すらできない人がいることが問題となっているそうです。

小さい組織で最大の効果

本大会を主催したSWYAAスウェーデンは、中心となった実行委員と当日ボランティアを含め20名弱の小さな組織でした。しかし、個々人の実力が高いのみならず、デジタル技術を駆使して少人数で多くのことを行っていました。サステナビリティを意識し、大型バスではなく公共交通機関を使ったり、大量の紙を使わずに1枚のスケジュールとWhatsAppでの連絡を組み合わせたりするなど、シンプルかつ効率的な工夫が随所に見られました。

また、SWYAAスウェーデンは過去に「SWYキャンプ」と称して、地方のキャンプ場でSWYさながらに自由な雰囲気の中で活動して過ごすイベントを開催した実績もあります。今回のオプションツアーではこの「SWYキャンプ」を実施するなど、彼らの思いと技量が詰まった大会となっていました。

人生に反映されるSWYスピリット

SWYAA世界大会の最大の魅力は、SWYのスピリットが世代を超えて継承され、各人の人生に反映されていることを実感できる点です。SWYのスピリットとは、

個々の交流に根ざしたものであり、相手に興味を持ち、自分と相手をありのままに受け入れ、尊重すること、そしてそこから協力して新しいものを創り出し、惜しみなく分かち合うといった行動や態度を指します。「言うは易し、行うは難し」です。これらは簡単に身につくものではなく、SWYの活動を通じて、感情の起伏を経験しながら培われるものです。そのため、大会の第1日目からすべての参加者にその姿勢が見られることは、SWYの価値を実感できる瞬間だと感じています。SWYスピリットは、もはや既参加青年の一部となり、息をするように日々の生き方や行動に自然と表れてくるものなのです。

日程	プログラム
8月3日(土)	参加者到着 アイスブレイキング
8月4日(日)	ストックホルム市内散策 (旧市街散策、ストックホルム市庁舎、 ヴァーサ号博物館) 開会式
8月5日(月)	社会貢献活動(以下から1つを参加者が選択) ・アルスタ地区の清掃活動 ・ADRA中古品店の支援活動 ・アロットメント庭園コミュニティでの美化活動 ・環境に配慮して行うプライドパークでの イベント撤去作業
8月6日(火)	課題別視察(以下から1つを参加者が選択) ・若者文化センター (Kulturhuset Vällingby) ・ソーシャルフードストア (Matmissionen) ・持続可能なスマートシティ (Norra Djurgårdsstaden) ・リサイクルのスウェーデン国内最大手企業 (Ragn Sells) ・移民女性の定住支援に取り組む企業 (Yalla Rinkeby) 事後活動発表会(SWYAA活動) フェアウェルパーティー
8月7日(水)	参加者解散

グローバルな活動 SSEAYPインターナショナル (SI) 各国の活動



SSEAYPインターナショナル (SI) は、SI構成員が行う大規模災害復興支援活動に対して、SIから迅速な支援が行えるよう、平成27年 (2015年) から大規模災害支援積立金を運用しています。これまでに、平成28年 (2016年) の熊本地震や平成30年 (2018年) の西日本豪雨の際にIYEOが行った復興支援活動を含む、合計9件の復興支援活動に対して支援を行っています。令和6年 (2024年) には、2件の復興支援活動に対してそれぞれ1,000米ドルを拠出しました。

SSEAYPインターナショナル・フィリピンによる 台風20号 (チャーミー) 復興支援活動

令和6年 (2024年) 10月22日に発生した台風20号 (アジア名: チャーミー (Trami)) は、フィリピン・ルソン島を横断し、少なくとも70人が死亡するなど、甚大な被害をもたらしました。これを受け、SSEAYPインターナショナル・フィリピンでは、各地の既参加青年が協力して復興支援活動に取り組み、特に被害の大きかったルソン島・バタンガス州において、約80世帯へ飲料水・食料 (米、パン、乾麺、缶詰など) や日用品 (医薬品、衛生用品など) を届けました。今後も継続してより多くの被災者へ支援品を届ける復興支援活動を計画しています。



ASSEAYタイによるチェンマイ洪水復興支援活動

令和6年 (2024年) 9~10月、タイ北部で続く雨の影響で、チェンマイ県のピン川付近の広い地域で大規模な洪水被害が発生しました。これを受け、ASSEAYタイでは、各地の既参加青年が協力して復興支援活動に取り組み、特に被害の大きかったチェンマイ県の被災者へ飲料水・食料や日用品 (医薬品、衛生用品など) を届けました。今後も継続してより多くの被災者へ支援品を届ける復興支援活動を計画しています。

グローバルな活動 SWYAA各国の活動

エクアドル

■国内外の自然災害被災者への義援金

会員からの寄付金を募り、トルコのNPO法人AKUT Search and Rescue Association を通じて、令和5年(2023年)2月のトルコ地震の被災者に義援金を届けました。また、同年3月、エクアドル南部の小さな町アラウシで発生した地滑りに対して、オンラインの寄付プラットフォームを通じて、被災者に義援金を送金しました。

■生物圏保護区にて廃棄物の堆肥化やリサイクルに関するワークショップ、フードバンクの活動を実施

SWYAAエクアドルは、堆肥化を促進する団体「La Cuica Cómica」、廃棄物のリサイクルを推進する団体「Basura Cero」及びエクアドルの国立工科大学の研究者の協力のもと、有機廃棄物の堆肥化と電子廃棄物を含む廃棄物のリサイクル活動を推進しています。令和5年(2023年)に、エクアドル保護区の一部であるマシュピを訪れ、現地の生徒や保護者に対して、堆肥化、廃棄物の分類、電子廃棄物のリサイクルに関するワークショップを行ったことに続き、令和6年(2024年)はフードバンクの活動を行いました。これは、社会的支援に加えて、本来なら分解されてメタン(温室効果ガス)を発生させる食品の廃棄を防ぎ、環境保護にも貢献します。



廃棄物の堆肥化やリサイクルについてのワークショップ

南アフリカ共和国



食事提供のボランティアをした既参加青年

■マンデラ・デー

7月18日のネルソン・マンデラ国際デーは、ネルソン・マンデラの誕生日に由来し、世界中で社会奉仕活動が行われます。SWYAA南アフリカでは、この日にあわせ、既参加青年が以下のような社会奉仕活動を行いました。

献血と食料品の提供: 献血を行うとともに、生活困窮家庭に食料品を提供する活動を行いました。

生活困窮者への食事の提供: 「バニーチャウ」(食パンの中をくりぬいてカレーを詰めたもの)という料理を作り、車で各地を回ってホームレスの人たちに提供しました。既参加青年にとって、この経験は様々な年齢や立場の人と分け隔てなく接し、協力する機会となりました。

学校でのボランティア活動: 既参加青年が、クリステル・ハウス・サウスアフリカ(CHSA)という学校でかつて教鞭をとっていたことから、マンデラ・デーには同校でボランティア活動を行っています。音楽、美術、スポーツといった授業のサポートのほか、サンドイッチの準備・提供や、リサイクル寝袋作りなどの活動を手伝いました。

■屋内「世界青年の森」プロジェクト

令和5年(2023年)にスペインで行われた「世界青年の森」植林プロジェクトに共感した既参加青年が、身近な所でできる取組として自宅で「スペックブーム」という植物を植えるプロジェクトを行いました。スペックブームは南アフリカに自生する多肉植物で、大気中の二酸化炭素を除去して空気をきれいにしてくれると言われてい



空気をきれいにしてくれるという植物「スペックブーム」

令和5年度「世界青年の船」事業 (地域実践活動)の受入れ

令和5年度「世界青年の船」事業が令和6年(2024年)1月24日から2月21日に実施されました。4年ぶりに船を動かしての実施となり、世界14か国の多様なバックグラウンドを持つ参加青年が、船内で共同生活を送りながら日本各地を訪問しました。その中で行われたディスカッションや参加青年主体のワークショップ、文化交流を通して、異文化対応力、コミュニケーション力、リーダーシップ、マネジメント力の向上を図るとともに、国境を越えた強い人的ネットワークを構築することができました。本ページでは、高知県で行われた地域実践活動について、高知県IYEOからの報告を掲載します。

地域実践活動

2月10日から17日の8日間、高知県にて地域実践活動が行われました。これは、「世界青年の船」事業で学んだ知識や経験を基に、地域が抱える社会課題の解決に向けたプロジェクト実践を行う目的で、令和5年度より開始されたプログラムです。SDGsを共通テーマとし、各国の参加青年はその下に設定された10個のディスカッションコース(CD)に分かれ、ディスカッションを実施しました。

各CDではSDGsをはじめとする社会課題に取り組む地域NPOや学校、企業と協力し、具体的なプロジェクトのプランニング、実際に現場に入ってプロジェクトを実践するまで一連の協働作業を行いました。

本活動で扱う課題は、高知県受入実行委員が事前に様々な団体の関係者に地域が抱える課題をインタビューして設定したものです。

以下に、10個のCDのうち、6個のCDで行われた活動を紹介します。

コースディスカッション	
CD-01	ジェンダー平等
CD-02	共生社会の実現
CD-03	質の高い教育の提供
CD-04	青少年のエンパワーメント
CD-05	地域の伝統と歴史の継承
CD-06	魅力あるまちづくり
CD-07	防災教育とツーリズム
CD-08	防災対策
CD-09	環境保護と観光
CD-10	自然と寄り添う暮らし

日程	プログラム
2月10日(土)	寄港式、オリエンテーション、オープンシップ、Hello SWY
2月12日(月)	CDごとに関連施設訪問・活動、高知駅周辺の施設訪問
2月13日(火)～15日(木)	CDごとに関連施設訪問・活動
2月16日(金)	成果発表準備
2月17日(土)	成果発表会リハーサル、成果発表会

■CD-01 ジェンダー平等

こうち男女共同参画センター「ソーレ」を訪問しました。午前のトピック「ジェンダー平等における魅力あるリーダーとは」では、参加青年がそれぞれ自国の現状を発表し、聴衆は自国との共通点や異なる点を見つけ出していました。日本参加青年がディスカッションでの通訳を務め、地元の高校生も議論に参加することができました。



こうち男女共同参画センターにてジェンダー平等についてディスカッション

■CD-02 共生社会の実現

豊かな森林資源を活用した産業が営まれている梶原町のKIRecub有限責任事業組合(現:株式会社KIRecub)を訪問し、組合員と共に今後の発展のために必要なことについて話し合いました。参加青年からは新しい製品の導入や、労働者の男女格差縮小などが提案されていました。包括的な雇用機会の提供が、共生社会における社会的流動性に貢献することを学びました。



KIRecub有限責任事業組合にて、共生社会実現のためにできることについてディスカッション

■CD-03 質の高い教育の提供

高知県立高知国際中学校・高校を訪問し、高校1年生の生徒と主に将来について英語でディスカッションを行いました。その後、IB教育や高知が抱える教育問題について教員のプレゼンを聞いた後、授業を見学しました。また、中学3年生の生徒と自国の良いところや良くないところについてディスカッションする機会もありました。生徒の好奇心や個性を尊重し、それらをいかす教育が、生徒の学習へのモチベーションやエンゲージメントを高める鍵となっています。



高知国際高校の生徒と共に教育についてディスカッション

■CD-06 魅力あるまちづくり

本山町にて旅館ツアーを実施し、伝統的な日本の建築物を紹介しました。また、高知県立嶺北高校を訪れ、高校生とともに旅館の活用方法や改造案などについてディスカッションを行いました。地元高校生のリアルな声からニーズを拾い上げることができました。小さな町だからこそ住民同士のつながりが深く、皆がそのつながりを大切にしていること、町内の様々な建築物の存在意義についても知ってもらうことができました。



嶺北高校の生徒と共に魅力的なまちづくりについてディスカッション

■CD-07 防災教育とツーリズム

海沿いの地域である黒瀬町では、南海トラフ巨大地震に備えた街づくりを始め、町民をあげて防災への取組が行われています。地元で活動するNPO職員が実際に町内を案内し、取組の実例を紹介しました。また、地元の高校生とチームを作り、地震が起きた場合を想定した避難訓練も行いました。実際の訓練を通して、日本語が分からない人や、黒瀬町の土地勘がない人が避難する場合、どのようなことが起きるのかを体感することができました。



黒瀬町にて、津波が来た時を想定した避難訓練

■CD-09 環境保護と観光

高知県内の自然環境と観光産業を組み合わせた場所や施設を中心に案内しました。室戸市では、高知県立室戸高校の生徒たちによるガイドの下、室戸ユネスコ世界ジオパークを散策しました。室戸ジオパークは室戸市全域が範囲で、平成23年(2011年)に日本で5つ目のジオパークとして認定されました。高校生と交流しながら、珍しい植物や美しい岩肌、穏やかな太平洋の水面などのありのままの自然を満喫できました。



室戸世界ユネスコジオパークにて、プレートテクトニクスについての説明を聞く

高知城を視察



国際社会青年育成交流事業 (地方プログラム)の受入れ

令和6年度国際社会青年育成事業(外国青年日本招へい)が令和6年(2024年)9月25日から10月5日の11日間の日程で行われました。外国参加青年は、9月26日から30日まで、テーマごとに2グループに分かれて地方プログラムに参加しました。外国参加青年は地元同行青年と共に各地で地元の人々と交流し、地方の文化に触れるとともに、テーマに関する地域の取組への理解を深めました。本ページでは、愛知県及び沖縄県で実施された地方プログラムの様子をそれぞれ紹介します。

愛知県

愛知県では、「再生可能エネルギー」をテーマとし、ディスカッションや関連施設の視察を行いました。ホストファミリーが来県したモロッコ及びスペインの青年たちを温かく歓迎しました。

日程	プログラム
9月26日(木)	豊橋技科大学にて豊橋バイオマスソリューションズ視察 武蔵精密工業にてマイクログリッド視察
9月27日(金)	豊橋バイオマス活用センター視察 豊橋市役所にて講義とディスカッション レセプション、ホームステイマッチング
9月28日(土)	ホームステイ
9月29日(日)	地元青年との交流(トヨタ産業技術記念館見学、名古屋大須のグループ散策)
9月30日(月)	名古屋城見学 帰京



トヨタ産業技術記念館の視察



お世話になった地元の方々との別れを惜しむ外国青年たち

沖縄県

沖縄県では、「水と防災」をテーマとし、ディスカッションや関連施設の視察を行いました。様々な活動を通じて、ドミニカ共和国とジャマイカの青年たちは、地元の方々との交流を深めることができました。

日程	プログラム
9月26日(木)	オリエンテーション、自主研修
9月27日(金)	沖縄県副知事表敬 沖縄県庁担当者の講義 琉球大学にて講義とディスカッション レセプション、ホームステイマッチング
9月28日(土)	ホームステイ
9月29日(日)	なは市民協働プラザにて防災士とのトークセッション、講義及び防災食の試食 地元青年とのディスカッション
9月30日(月)	首里城見学



ホームステイマッチング



水と防災をテーマに地元青年とディスカッション

日本・韓国青年親善交流事業 (地方プログラム)の受入れ

令和6年度日本・韓国青年親善交流事業(韓国青年日本招へい)が11月1日から9日までの9日間の日程で行われました。団長、副団長、通訳を含む韓国青年代表団25名は、東京都、広島県、徳島県を訪れ、地元青年との交流やディスカッション、ホームステイ等を行いました。

本ページでは、11月3日から9日に広島県及び徳島県で実施された地方プログラムについて紹介します。

広島県

広島県では、表敬訪問や地元青年とのディスカッションの他、広島市内での施設見学、中学生との交流等を行いました。

日程	プログラム
11月3日(日)	来県
11月4日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・広島平和記念資料館見学 ・平和記念公園散策 <ul style="list-style-type: none"> -原爆死没者慰霊碑(献花) -韓国人原爆犠牲者慰霊碑(献花) -原爆ドーム ・歓迎会 ・エディオンピースウイング広島スタジアムツアー ・夕食交流会
11月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・宮島散策(厳島神社、表参道商店街等) ・廿日市市立宮島小学校・宮島中学校訪問 ・山根健嗣広島県副知事表敬訪問
11月6日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元青年とのディスカッション及び交流



廿日市市立宮島小学校・宮島中学校の中学3年の生徒と交流



原爆ドームの前で地元関係者とともに記念撮影

徳島県

徳島県では、表敬訪問や大学訪問の他、伝統芸能鑑賞や1泊2日のホームステイ等を行いました。

日程	プログラム
11月6日(水)	来県
11月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・四国大学訪問 <ul style="list-style-type: none"> -藍染体験 -授業参加 -昼食交流会 -書道体験 ・歓迎会
11月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁職員による徳島県概要説明 ・後藤田正純徳島県知事表敬訪問 ・人形浄瑠璃鑑賞(阿波十郎兵衛屋敷) ・阿波おどり会館見学 ・ホームステイ
11月9日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・お別れセレモニー ・帰国



歓迎会でホストファミリーや地元関係者とともに記念撮影



四国大学での藍染体験

日本・中国青年親善交流事業 (地方プログラム)の受入れ



大井川和彦茨城県知事表敬訪問

令和6年度日本・中国青年親善交流事業(東京フォーラム)が令和6年(2024年)11月19日から23日の5日間の日程で行われました。団長・副団長・渉外を含む日本青年代表団20名及び団長・秘書長を含む中国青年代表団20名の計40名は、東京都と茨城県を訪れ、テーマ別視察やディスカッション、地元青年との交流等を行いました。

本ページでは11月22日から23日に茨城県で実施された地方プログラムについて紹介します。

茨城県

茨城県では、以下の日程のとおり表敬訪問や、テーマである「地方創生」についてつくば市から市の取組の講義を受けたあと地元青年とのディスカッションを行った他、歓迎会での文化交流や、地方企業の訪問を通して地元青年との交流を深めました。

日程	プログラム
11月22日(金)	大井川和彦茨城県知事表敬訪問 地元青年との昼食交流会 五十嵐立青つくば市長表敬訪問 つくば市の地方創生についての取組に関する講義 地元青年とのディスカッション 歓迎会
11月23日(土)	地元企業訪問(KASUMI、サイバーダイナスタジオ)



サイバーダイナスタジオにて最先端の介護ロボットを体験



つくば市役所にて地元青年と地方創生に関するディスカッションを実施



つくば市で行われた歓迎会にて、地元関係者とともに記念撮影

ローカルな活動 第48回「東南アジア青年の船」事業 (地方プログラム)の受入れ

第48回「東南アジア青年の船」事業が令和6年(2024年)11月4日から12月11日までの38日間の日程で行われました。12月6日から12月9日に実施された地方プログラムでは、ASEAN9か国、東ティモール及び日本の参加者の合計168名が、グループに分かれて奈良県、高知県、熊本県、北九州市、函館市を訪れ、地元青年との文化交流、ホームステイ、県庁や市役所への表敬訪問、施設見学等を行いました。各地方プログラムは、奈良県IYEO、高知県IYEO、熊本県IYEO、福岡県IYEO、一般財団法人北海道国際交流センター(HIF)及び北海道IYEOが受入れを行いました。

奈良県



東大寺についての説明を地元青年から受ける

高知県



地元青年と日曜市を訪れる

熊本県



郷土菓子いきなり団子の調理実習



奈良公園を散策中、鹿と触れ合う参加青年



よさこい情報交流館を訪問



熊本県の踊り「牛深ハイヤ節」を体験

北九州市



茶道体験でお菓子をいただく

函館市



函館奉行所を訪れ、復元工事に使用された部材の展示を見学



竹灯籠作りに挑戦する参加青年



ホストファミリー対面式でパフォーマンスを行う参加青年

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第40回全国大会



令和6年11月9日から10日に、山梨県富士吉田市にて、青少年国際交流事業事後活動推進大会（日本青年国際交流機構第40回全国大会）が、ハイブリッド形式で開催されました。内閣府からは由布和嘉子内閣府大臣官房審議官（青年国際交流担当室長）、中田昌和国際調整官、伊藤慶矢参事官補佐、阿部宏美事務官、長谷川穂事務官が参加しました。「Love your calling with passion～あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～」をテーマとして掲げた本大会には、日本全国各地から180名を超える多くの方が参加しました。

第1部では、「今を重ねて生ききる～私の使命、アフリカ・アジアでの実践をとおして～」というタイトルで、国際ジェンダー専門家、社会起業家である新津茉莉花氏による基調講演が行われました。新津氏はJICAでの国際協力活動を通して発展途上国が抱える社会課題と出会い、Calling（使命感）をもって課題に向き合ってきた。

現在は、日本、ニジェール共和国、バングラデシュ等の女性支援の活動を行い、山梨の地を拠点に、子育てをしながら社会起業家として活躍しておられます。今回の講演では、多様な国籍・背景の同僚と働いた経験から、多様性を尊重し、日本人としてグローバルに活躍するための強みについても認識するようになった新津氏の経験を通して参加者一人一人が自らの生き方を見つめなおし、自分らしさや、自分の使命について考える時間となりました。

その後、多種多様なテーマに基づく八つの分科会が行われました。山梨甲州ワイン講座、甲州かるたの体験、御師の家、富士講ツアーなど、山梨県の歴史や文化について理解を深めたり、参加者相互での交流を楽しんだりできる工夫を凝らした会でした。

今大会は、参加者にとって、多様性を尊重する社会の実現と地域の魅力を継承し、より発展させていくために、これから何をすべきなのか、自分の中にあるCalling（使命）を知り、未来への一歩を踏み出すきっかけとなる大会でした。

日程	プログラム
11月9日（土）	第1部
	・開会式、全体集合写真記念撮影
	・基調講演
	・分科会
	・第1部閉会式
	第2部
	・開会式
・帰国報告会	
11月10日（日）	・山梨県青年国際交流機構活動報告
	・懇親意見交換会
	地域理解研修オプショナルツアー
	集合、出発（各オプショナルツアーごとに）
	散策、解散



新津茉莉花氏による
基調講演



基調講演をふまえたワークに取り組む
由布和嘉子内閣府大臣官房審議官



「山梨ワイン講座～『甲州』他ワインで語る日本の味わい～」(分科会)



御師の家、富士講ツアー(分科会)

青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい ブロックイベント開催報告

令和5年度北海道・東北ブロック（秋田県）



令和6年（2024年）1月20日、秋田県秋田市のアウトクロップシネマにて北海道・東北ブロックイベントをオンライン形式で開催し、49名が参加しました。内閣府からは伊藤慶矢参事官補佐、阿部宏美事務官が出席しました。

イベントテーマは「世界に誇る発酵の大地、秋田で醸される人材とプロジェクト」。地域特有の資源である「発酵」をテーマにクロストーク形式の講演会と双方向のやり取りで理解を更に深める分科会の2段階構成で実施しました。「発酵クロストーク」と題して行ったクロストーク形式の講演会では、秋田県をフィールドに国際的な視座を持ちながら活躍する方々が、発酵に代表される地域資源の可能性や、発酵を中心に人材がコラボレーションすることでもたらされる効果について話しました。分科会では「発酵クロストーク」のスピーカー2名が講師となり、参加者の興味関心を引き出しながら双方向でテーマを掘り下げました。雪深い酒蔵の中で着実に発酵を進める酒樽のように、参加者が各々の思考を熟成させ、学びを深めました。

令和5年度東海ブロック（愛知県）

令和6年（2024年）3月16日、愛知県名古屋市のウインクあいちにて東海ブロックイベントを対面形式で開催し、175名が参加しました。内閣府からは伊藤慶矢参事官補佐、長谷川穂事務官が出席しました。

本イベントでは、「東海チャレンジャーズサミット 挑戦者たちの夜明け-Dawn of the Challengers-」をテーマに、グローバル×ソーシャルで活躍している東海のキーマン&チャレンジャーたちのサミットを開催。参加者の活動を応援し、今の若者たちが決定権をもつ2050年、さらにその先を見据え、世界と世代を超えて話し合う機会としました。第1部に行われた全体会では「開拓者の描く2050年」と題し、パネルディスカッションを行いました。グローバル、ソーシャル、ローカル等様々な領域に越境している講師の経験談から、参加者は東海からどのように世界と関わり、そして世界をどのように変化させていきたいかを考えました。引き続き行われた分科会はグローバル・教育、ローカル・政治・ソーシャルの視点から設定し、参加者が興味のある分野を掘り下げ、ネクストアクションにつなげました。



令和6年度四国ブロック（香川県）

令和6年（2024年）9月7日、香川県高松市のふらっと仏生山にて四国ブロックイベントをハイブリッド形式で開催し、71名が参加しました。内閣府からは、阿部宏美事務官、長谷川穂事務官が出席しました。

イベントテーマは「讃岐の国は国柄か 共生社会とともに足り行かむ」。万葉集にも「玉藻よし讃岐の国は国柄か 見れども飽かぬ」と歌われているように風光明媚で災害も少ない香川県では、全国に先駆けて人生100年時代に全県民が生涯のあらゆる段階で活躍し、人生の豊かさと幸せを実感しながら安心して暮らすことができる地域社会を実現する「人生100年時代のフロンティア県」を目指しています。

基調講演では、LGBTQ+（多様な性）への理解を深めるための講師として活躍されている高野晶氏のお話から自分の存在を見つめなおすことができました。また、分科会では、「マイクロアグレッション（無意識に行われる軽微な侮辱や攻撃、偏見に基づく言動や態度）」について学び、国際交流の場において互いの違いを尊重するための手がかりが得られました。

本イベントでは参加者全員がフロンティア精神を持って、自らを振り返ったり、互いに活発な議論を交わしたりすることで、青少年の育成と地域の活性化及び国際交流に貢献できるひと時となりました。



「国際社会で求められる多様性～トランスジェンダーの立場から～」と題する基調講演をされる高野晶氏

ローカルな活動 北海道IYEOの活動

ビアンビ!「来てみたらなんとかなった!～海外移住と、人生の小さな変化のコツ3つ～」

「ビアンビ!」とは、札幌農学校(現北海道大学)初代教頭としてアメリカから招かれたウィリアム・スミス・クラーク博士の有名な言葉「Boys, be ambitious.(青年よ、大志を抱け)」から名付けた北海道IYEO独自のイベントです。国際的に活動している人からお話を聞き、参加者が海外に一步踏み出すきっかけを作ったり、国際的な活動から学んだりする機会となっています。

コロナ禍後、久々の開催となりましたが、令和6年(2024年)7月14日、札幌エルプラザにて実施し、10名が参加しました。今回は、「来てみたらなんとかなった!～海外移住と、人生の小さな変化のコツ3つ～」と題してデザイナー兼フォトグラファーとしてドイツで活躍されている北海道IYEO会員の宮澤未央さんからお話を伺いました。一般参加者の中には、転職を検討していて海外にも行ってみたいという方や、フリーのデザイナーとして活動している方もいたため、イベント終盤の質問タイムでは海外での生活や制度など具体的な情報が飛び交い、非常に活気あふれる会となりました。



北海道IYEO 平中沙也香会長が北海道IYEOや内閣府青年国際交流事業について説明



登壇者の北海道IYEO 宮澤さんが、海外移住と、人生の小さな変化のコツ3つについて紹介



参加者集合写真

ローカルな活動 長崎県IYEOの活動

「長崎県知事賞」を受賞

長崎県IYEOは、主に「東南アジア青年の船」事業や「世界青年の船」事業の地方プログラムの受入れにおいて、地元の大学生や若手社会人を実行委員に起用することでグローバルな視点を持ち、地元で活躍できる人材の育成に努めています。また、独自の取組みとして、長崎市内の中学校と「東南アジア青年の船」事業フィリピン既参加青年の学校が連携し、「1人1羽平和を祈る折り鶴プロジェクト」を立ち上げ、8月9日の長崎平和祈念集会で活動したり、海外で活躍する会員を講師とした中学生向け「海外お仕事セミナー」を実施したりしています。

このような活動を続けてきたところ、令和6年(2024年)6月、「長崎県こども・若者応援団」(青少年健全・支援部門)で「長崎県知事賞」を受賞しました。活動を続けてこられた先輩方に対する心からの敬意を表するとともに、長崎県IYEOの新しいステージの幕開けを感じています。これからもIYEOのネットワークを活用し、長崎の若者と外国を繋ぐお手伝いを続けていきます。



長崎県こども・若者応援団表彰式



「1人1羽平和を祈る折り鶴プロジェクト」

ローカルな活動 宮崎県IYEOの活動

副知事表敬訪問

令和6年(2024年)8月19日、令和6年度内閣府青年国際交流事業に宮崎県から参加する2名の青年が佐藤弘之副知事を表敬訪問しました。

佐藤副知事より「内閣府青年国際交流事業は良いプログラムだと聞いており、この事業での体験は仕事など様々な面で役に立つと思われる。ぜひ、宮崎県をアピールしてきていただきたい」との激励のお言葉をいただきました。

「世界青年の船」事業に参加する青年は、外国青年と交流するのを楽



荒武会長(左端)と山崎事務局長(右端)とともに

しみにしていること、日本・韓国青年親善交流事業に参加する青年は、参加青年20名のうち自分が最年長なので、どのように青年たちをリードすればよいか考えていると話していました。表敬訪問終了後は、同行した荒武千穂宮崎県IYEO会長と山崎菜月宮崎県IYEO事務局長と交流を深めました。



佐藤弘之副知事を表敬訪問する

ローカルな活動 IYEOオンボーディング

IYEOでは、令和6年度内閣府青年国際交流事業の参加青年に向けたオンボーディング活動を実施しています。この活動では、IYEOでの事後活動を身近に感じてもらい、事業参加後にIYEOの活動へ興味を持ち、積極的に参加できるようサポートしています。事業参加中からIYEOの活動を知り、事業後の取組みを具体的にイメージする機会を提供することを目指しています。

主な取組として、事前・事後研修や内閣府青年国際交流事業におけるIYEO活動紹介セッションを実施しています。特に令和6年度からは、最近の事業参加者やIYEOで活躍するメンバーが毎回複数名参加し、自身の活動経験を共有することで、参加青年がIYEOの事後活動をより身近に感じられるよう工夫しています。

<取組事例>

- ・内閣府青年国際交流事業における本体プログラムや事前・事後研修でのIYEO活動紹介セッションの開催
- ・各都道府県IYEOによる表敬訪問、アドバイス会、壮行会などの開催



三浦 宗一郎さん

この人!

みうら そういちろう
三浦 宗一郎さん一般社団法人ハッシャダイソーシャル 共同代表理事
平成28年度「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」
既参加青年

参加のきっかけ

高校卒業後、自動車製造の仕事に従事していましたが、成人式で出会った同級生を通じて内閣府の「世界青年の船 (SWY)」事業を知りました。その後、同事業の元参加者・永崎裕麻さんの著書に偶然出会い、「SWYへの挑戦が自分の人生を大きく変える」と直感しました。迷わず参加を決めました。

若者を勇気づける仕事へ

参加後、人の人生にかかわる仕事に挑戦することを決意し、工場での仕事を退職。中卒高卒の若者のキャリアを支援する「ヤンキーインターン」を運営する(株)ハッシャダイの一員となりました。その後、令和2年(2020年)に一般社団法人ハッシャダイソーシャルを設立しました。現在は「それでもなお、人生は選べる」をスローガンに掲げ、様々な「選べなさ」を抱える若者たちの自己決定を応援する取り組みを多岐に渡って展開しており、年間2万人を超える10代の若者たちに機会を届けています。高校や少年院と連携したプログラム「ハッシャダイスクール」は、第14回キャリア教育アワードのコーディネートの部において「最優秀賞(経済産業省大臣賞)」を受賞しました。

日本の可能性を見出し、世界に届けたい

さらに、18歳で成人を迎えた若者をエンパワメントする「CHOOSE YOUR LIFE FES #18歳の成人式」や、若者を闇バイトや詐欺から守るための「騙されないための教科書」の制作・

配布など、多角的なアプローチで若者たちの可能性を支援しています。こうした活動の原点には、SWYでの経験があります。SWYでのプログラム中のディスカッションでは「ユースエンパワメント」コースを選択し、この中で、他者を勇気づける人とかかわり方等を学びました。また、SWYに参加したことで、「日本はまだまだ捨てたもんじゃない。眠っている可能性がたくさんある。選べなさを抱えた若者たちと共に、世界を驚かすような価値を生み出していきたい。」と思うようになりました。今の僕があるのは、10か国もの青年が一堂に会し、絶対に出会えないような人たちと共に生活したあの経験のおかげです。

内閣府青年国際交流事業

くわしくはこちら URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

内閣府青年国際交流

検索



内閣府青年国際交流事業 2024年 事後活動ニュース

発行日: 2025年2月28日

発行: 内閣府青年国際交流担当室

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館8階

TEL: 03-6257-1434 URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>編集: 一般財団法人青少年国際交流推進センター (Center for International Youth Exchange) URL: <http://www.centerye.org/>編集協力: 日本青年国際交流機構 International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) URL: <https://www.iyeo.or.jp/ja/>